

建設機械メーカー、建設業界は 環境保護にも取り組んでいます。



地球の温暖化を防ぐことと同様に人の健康や動植物を守るために「環境保護」も重要なテーマです。国土交通省の施策を受けて、さまざまな環境対策が進められています。

排出ガス低減

オフロード法の技術基準を満たす車両、および国土交通省による排出ガス対策型建設機械の指定を取得した機械。



基準適合表示



指定制度表示

振動低減

国土交通省による低振動型建設機械指定制度の基準値を満たす機械に表示します。



騒音低減

国土交通省による低騒音型建設機械指定制度の基準値を満たす機械に表示します。



環境負荷低減

「環境負荷低減技術指針」を制定。工事が環境に与える影響を最小限度に抑える努力を続けています。



社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011
東京都港区芝公園3-5-8 (機械振興会館)
TEL:03-3433-1501 FAX:03-3432-0289
URL:<http://www.jcmanet.or.jp/>

STOP!

地球温暖化



社団法人 日本建設機械化協会

地球温暖化が急速に進んでいます！

「温室効果ガス」と呼ばれる排気ガス(CO₂)やメタン、フロンガスが地球を覆い、地表の温度が上昇して異常気象や砂漠化、海面上昇が進んでいます。

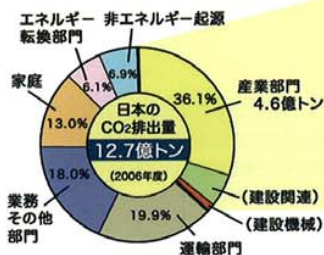


温暖化防止は待ったなし！



世界のCO₂(二酸化炭素)排出量は約270億トン(2005年度データ)のうち日本の排出量は約12.7億トン。

日本における建設関連分野を含む産業部門のCO₂排出量は4.6億トン。



建設機械から排出されるCO₂は約1000万トン

産業部門4.6億トンのうち建設機械を含む建設関連分野からの排出量は約1.1億トン。

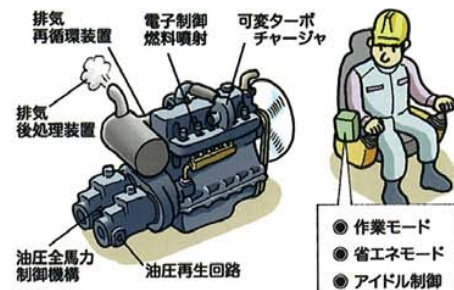
建設機械が占める割合は非常に少ないが、国家の最重要課題であることから省エネ化を積極的に図っています。

地球温暖化を防ぐために 建設機械メーカーの取り組み



- 建設機械メーカーでは20年前から「省エネ」や「排出ガス低減」などの技術開発を進めてきました。
- さらに1997年の京都議定書で日本の低減目標が決定されたことを受けて、建機製造に係わる消費エネルギーを低減するための設備の導入や職場環境の改善が継続的に実施されています。

- この15年間に油圧ショベル、ローダ、ブルドーザの3機種平均で約10%の燃費効率改善を実現しました。



- 将来に向けて建設機械メーカーではさらに大幅なCO₂削減のため燃費を20~30%低減できるハイブリッド・システムや電動ショベルなどの研究開発を推進しています。



地球温暖化を防ぐために 建設業界の取り組み



- 建設業界でも燃費が改善された建設機械を積極的に現場に投入しています。
- 工事現場では日本建設機械化協会発行の「省エネ運転マニュアル」や「建設施工における地球温暖化対策の手引き」などを活用して温暖化防止に取り組んでいます。



また最近では、GPSや3次元設計データによるマシンコントロールなどを利用した「情報化施工」を採用することにより施工効率を向上させてCO₂削減を図る研究も進められています。